

第 13 回居住性能評価指針検討 WG 議事録（案）

A. 日 時 2013 年 5 月 20 日 火曜日 18:00-20:00

B. 場 所 建築学会会議室

C. 出席者 松本主査、他 10 名

D. 提出資料（提出委員名）

No.13-00：第 12 回居住性能評価指針検討 WG 議事メモ

No.13-01：評価指針の枠組みについて（宿題）

No.13-02：近年の既往研究まとめ@風振動分野その 2

No.13-03：振動の時間に関するパラメータが及ぼす人の応答への影響について

No.13-04：居住性能評価検討 WG 資料

No.13-05：床振動に関する時間の影響について

E. 議事内容

1. 議事録確認

資料 13-00「第 12 回居住性能評価指針検討 WG 議事メモ」について主査より報告

※前回委員会議事録内容の確認

→承認された

2. 議論

A) 資料 13-01「評価指針の枠組みについて（宿題）」について松本主査より報告

※評価の枠組み

→振動を各種パラメータ（振動数・振幅・加速度等⇒振動の性能値）を用いて表し、
人体側の反応・評価を行う

→各種パラメータ：振動数・振幅・時間変動特性・継続時間・発生頻度・聴覚視覚
の影響など

→既往研究等の文献調査を行いながら、検討を加える

→設計指針と評価指針は独立して検討する

B) 資料 13-02「近年の既往研究まとめ@風振動分野その 2」についての報告

※既往研究まとめ（その 2）

→室内における各種アイテム（什器等）による振動の知覚について報告

→高層建築物では、強風時等において生じる長周期水平振動時において、各種室内
什器等の振動により建築物の動揺を知覚する可能性が考えられる

C) 資料 13-03「振動の時間に関するパラメータが及ぼす人の応答への影響について」

について松本主査より報告

※時間パラメータ

→時間パラメータの定義をどのように定義すべきか

→「継続時間」とは？インパルス的な打撃の繰り返し回数に関する検討も「継続時間」としてまとめているが混乱をきたさないか？

D) 資料 13-05「床振動に関する時間の影響について」についての報告

※時間の影響に関する知見

→衝撃の間隔よりも衝撃の回数の影響の方が大きい

→減衰が大きいほど知覚振動量は大きくなる（鈍化する）

※人体の振動感覚への時間パラメータの影響

→振動の積分値に依存性が見出せるそうだが（振動レベルのような）、周波数の変動成分も加味する必要があると思われる

→地震時の被害想定も時間成分（継続時間・減衰等）を考慮し検討がなされているので参考になるか？

→人体と「モノ」は評価機構が異なるので留意、「モノ」は固有振動数の影響も大きい

3. 次回以降の課題

※時間パラメータの影響

→継続時間、繰り返し回数、積分値による評価等

※視覚情報の影響

→室内什器のゆれ、人体の視覚知覚

※知覚閾以上の振動

→生理反応、行動/作業障害

4. 次回開催予定

次回の当委員会は、8月6日（火曜日）18時00分より本会会議室で開催します。資料を提出される方は、あらかじめ準備(13部)されるか、もしくは3日前までに原紙を事務局へ送付ください。